

京都血液腎カンファレンス 聴講レポート

去る 2021 年 7 月 1 日に中外製薬主催、京都腎臓医会後援で「京都血液腎カンファレンス」が開かれました。本カンファレンスは、神田先生（京都民医連）のリーダーシップと充実な講演内容を特徴とする年 1 回の研究会で、トピックは TAFRO 症候群でした。家原先生（京都市立 腎臓内科）の開会挨拶に続き、前半は、井上先生（民医連中央）の座長のもと、山田先生（民医連中央）と上松瀬先生（京都市立 現 京大大学院）の症例報告でした。後半は伊藤先生（京都市立 血液内科）座長のもと、お二人の基調講演でした。一人目は金沢医科大学 血液免疫内科学教授 正木康史先生です。TAFRO 症候群について、しばしば併記される多中心性キャスルマン病を引き合いに、これらの多彩な臨床症状の背景に潜む高 IL-6 血症、さらには高サイトカイン血症を特徴とする疾患群の俯瞰的な病態把握に関して御丁寧に解説頂きました。二人目は京都医療センター 血液内科 希少血液疾患科科長 川端 浩先生で、TAFRO 症候群では、年齢や D-dimer が重要な予後関連因子であること、急性期の死因として感染症が重要であるなど、多施設共同後方視研究による TAFRO 症候群の新たな知見を共有頂きました。

なお、今回の講演会との直接の関連はございませんが、両先生より御提供いただきました資料も合わせて添付いたします。ご厚意によりお預かりしたものですので、ぜひ個人のご研鑽目的でのみのご利用をお願いします。それでは、第 3 回も計画しておりますので、皆様ぜひお楽しみに。以上、松原（京都大学）の報告でした。